「歩いて暮らせるまちづくり」ウォーカブルシティの深化と定着

新潟県見附市（2019年度選定）

1.地域の特徴と課題及び目標	見附市は、新潟県の中央（重心点）に位置する県内で最も面積が小さい市である。交通利便性の高い環境にあり、県内でも社会動態の人口減少率は低い方ではあるが、人口は約3.8万人、高齢化率約34%と人口減少に加え少子高齢化が進展している。目標である「住んでいるだけで健康で幸せになれる健幸都市」の実現に向け、日常生活で必要な運動量が確保される「歩いて暮らせるまちづくり」の推進及び市民の社会参加を通じた交流の喜び、生きがいの享受がポイントであり、公共交通の整備や交流施設、環境を整えることで日常生活における誘導を図り、市民の行動変容へ繋げていく。
2.関連するゴール	
3.取組の概要 **(三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)**	「歩いて暮らせるまちづくり」の推進により、歩くことで健康増進を図るとともに、まちなかに歩行者を増やし、人と人が触れ合え、交流ができる賑わいのある市街地として都市機能を集約し、将来に渡り持続できる都市の形成を図る。そのために、①公共交通を軸にした外出しやすくなる仕掛け、②回遊人口の増加によるまちなかの賑わいを創出する仕掛け、③市民の行動変容を促すため、交流促進の活性化、ソーシャルキャピタルを向上させる仕掛けの3つの視点を持って総合的に施策を展開する。

4.自治体SDGs推進等に向けた取組

<外出しやすくなる仕掛け>

①コミュニティバスのロケーションシステムを10月から更新
・バスの運行状況、乗車状況の確認が容易となり、利便性が向上。

②市内中学生以下のコミュニティバス利用の無料化
・子どもたちの活動範囲を広げ、地域の魅力発見や愛着心を育むことを目的に市内在住の中学生以下の料金を無料化。

プレイラボみつけ

<まちなかの賑わい創出>

③プレイラボみつけ整備
・商業施設跡地をリノベーションし、全天候型の交流拠点として子どもたちの居場所を整備。

<市民の行動変容を誘導>

④エコアクションみつけの開催、広報等でごみの減量化、資源化を啓発。

5.取組推進の工夫

市内の中学校×1校、市外の高校×1校からの要請に応じ、当市の進めるSDGs施策について講演。特に市内の南中学校では3年生の総合学習として実施し、10年後の見附市を考え、地域の施設、人材、施策について知ってもらう機会となった。

6.取組成果

①コミュニティバスの利用者数
自家用車から公共交通へのモーダルシフトを促すことで排気ガスの排出抑制につなげる。
2023年度：191,850人（過去最高利用者数）

②起業・創業の件数（まちなか賑わい創出）
起業創業支援事業補助金12件が採択。
2023年度：24件（累計）

③1人1日あたりのゴミ排出量の抑制
2023年度：832ｇ（2022年度871ｇ）

7.今後の展開策

・見附駅活性化のための交流拠点として「MITSUKERU」（ミツケル）を2024年5月に整備。
・市内外の教育機関における総合学習等で引き続き市のSDGsの取組みを紹介し、子どもたちへSDGsの普及・啓発を実施していく。

8.他地域への展開状況（普及効果）	2023年度のSDGs,SWC関連の視察受入件数は16件、156人。視察件数も増加傾向にあり、SDGs,SWC関連の視察が多いことから、引き続き「健幸都市」の実現のため、日本のモデル地区となれるように推進していく。